

大船渡市のI-L-C誘致に向けた取組みについて

大船渡市企画政策部I-L-C推進室長 木川田 大典



大船渡市は、I-L-C計画の建設候補地に近接し、重要港湾である大船渡港を有していることから、I-L-C建設の際に資機材等の荷揚げの中心地として物流拠点になることが期待されます。このことから、当市では、I-L-C計画を東日本大震災からの本格復興のための一大プロジェクトと位置付けています。

当市内において行われている、I-L-C誘致に向けた主な取組みについて、ご紹介します。

I-L-C推進室の設置

大船渡市では、平成29年8月に庁内におけるI-L-Cに関連する諸事業についての調整及び協議を行うため、I-L-Cに係る関係部課長等連絡会議を設置しました。その後、I-L-C誘致を取り巻く情勢が大きく変化したことから、同年12月に企画政策部内にI-L-Cに係る事務事業を統括する「I-L-C推進室」を設置

し、体制の強化を図ったところ です。

今年4月には専任職員2名を配置し、I-L-C誘致に向けた市民意識の醸成や、I-L-C関係者等の受入れに係る環境整備の検討などについて、県や関係自治体・団体と連携しながら取組んでいます。

大船渡港に関する取組み

大船渡市では、東日本大震災前から「大船渡港」を核としたまちづくりを進めて参りました。

平成19年3月には、韓国・釜山港との間で岩手県内初となる国際貿易コンテナ航路が開設されました。

その後、震災により釜山航路は休止となりましたが、平成25年9月からは京浜港との間で新たに国際フェイダーコンテナ定期航路が開設され、国際港湾として再スタートしています。

・「いわて大船渡港セミナー」における講演会の開催

大船渡港物流強化促進協議会(※)では、毎年、東京都内で首都圏の船社・物流関係者等を対象として、「いわて大船渡港セミナー」を開催しています。

平成28・29年には、I-L-Cの建設・運用による物流拡大に伴う港湾の重要性についての講演会を開催しました。

これまでI-L-Cは、岩手・宮城両県では比較的認知度が高いものの、それ以外の地域では、あまり高くないのが現状でした。

I-L-C誘致の実現に向けては、全国的な認知度の向上や国民の理解が必要とされていますが、この講演会の開催によって、首都圏の企業の方々にもI-L-C計画に対する理解を深めていただけたものと考えています。

・45フィート海上コンテナ運搬車両の公道走行実証実験



公道走行実証実験の様子

大船渡市と大船渡港物流強化促進協議会は、昨年9月に大船渡港の物流機能の強化に向け、45フィート海上コンテナ運搬車両の公道走行実証実験を行いました。

45フィート海上コンテナとは、通常の40フィート海上コンテナよりも15m長く、一度に運搬できる貨物量が多いコンテナですが、ILCの建設で想定される資機材の中には、45フィート海上コンテナの利用が見込まれるものがあり、その利用の可能性も視野に入れ、大船渡港から建設候補地までのルートで公道

走行実証実験を行いました。

(※) 大船渡港の物流拡大と地域経済の振興を目的とした、内陸部工業集積地域も含んだ大船渡港物流圏域の行政や商工団体及び企業等で構成される港湾関係団体。

市の広報誌による啓発

ILC誘致が実現すると、当市で最も期待されるのは、ILC建設期における大船渡港の活用ですが、その他にも研究者などの来訪・移住による交流・居住人口の増加や、研究施設・関連施設での雇用の創出、ILC関連企業との連携による市内産業の振興などが考えられます。

これらのILC誘致がもたらす当市への波及効果などについて、市民に理解を深めていただくために、昨年度から市の広報誌に特集記事を掲載しています。

1回目は、ILC計画の概要の説明や建設候補地などについて掲載しました。2回目は、当市への波及効果や建築資機材の荷揚げを想定した大船渡港の物流に関する情報、ILC類似施設であるスイスCERNの先進事例などを掲載しました。

今後も随時、ILC関連の動向などを周知

し、普及啓発に努めて参ります。



市役所駐車場に設置された横断幕

啓発用横断幕の設置

当市役所の駐車場入口付近フェンスに、「国際リニアコライダーを東北へ」の横断幕を設置して、来庁者への周知を図っています。

講演会の開催

ILC誘致の実現には、地域を挙げての盛



昨年の I L C 講演会の様子

を開催します。

出前授業

I L C 誘致が実現すると、当市と近接する場所に世界最先端の研究施設ができる事になります。次代を担う子どもたちにとって、自分たちが住むまちの近くにこのような施設ができることは、将来の進路で選択肢が増えることとなり、研究の道に進む者が出てくることも考えられます。

そこで、子どもたちの科学に対する興味を深め、I L C 実現に向けた意識高揚を図るため、平成28年度から市内中学生を対象とした、宇宙やI L C 計画に関する出前授業を、ドイツ・マインツ大の斎藤教授を講師に招き実施しています。

国際化への対応

I L C 誘致が実現すると、当市においても外国人研究者等の居住や来訪により、これまでにないスピードで国際化が進むことが予想されます。

このため、外国人受入れ環境の整備が必要となってきますが、これはI L C の実現に限

らず、昨今の外国人観光客の増加に伴う、いわゆるインバウンド対策や、来年以降のラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの開催からも、早期の対応が求められています。

そこで、今年度から、観光担当部署への国際交流員の配置や、市民の国際コミュニケーション能力の向上を目的として、初心者向けの英会話講座を開講しています。

議会の取組み

・大船渡市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟

昨年6月、I L C の誘致実現のため、大船渡市議会議員全員で構成する大船渡市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟が設立されました。

・気仙地区議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟

今年2月、大船渡市・陸前高田市・住田町の3市町議会議員全員で構成する気仙地区議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟が設立されました。

市では、これら2団体とも連携を図りながら、

り上がりが重要となってきますが、それにはI L C を正しく知る必要があります。

そこで、市民にI L C 計画の意義や波及効果をわかりやすく理解していただくために、I L C 計画の第一線で活躍されている方々を講師に迎え、講演会を実施しています。

I L C 関連の講演会は、民間主体でも開催されていて、市民の間でI L C 誘致への機運が高まってきたことが感じられます。

この盛り上がりをさらに高め、誘致に係る政府判断を後押しするため、今年度も講演会

誘致実現に向けた活動を実施して参ります。

経済団体の取組み

・会報誌での普及啓発活動

大船渡商工会議所では、会報誌にI L C関連の記事を掲載して、会員等への普及啓発を図っています。

・I L C誘致促進集会

大船渡市、陸前高田市、住田町の商工会議所・商工会で組織する「気仙地区商工団体連絡会」が、I L Cを気仙地域における復興に向けた真のプロジェクトと位置づけ、昨年6月に「I L C誘致促進集会」を開催しました。

今後の取組み

・「I L Cと共生するまちづくりビジョン」の策定

広範な分野へ多大な波及効果をもたらすI L Cは、将来の当市のまちづくりの核となり得る可能性を秘めています。

また、I L Cがもたらす効果は、広く気仙地域に及ぶため、広域連携の観点からも大いに期待されることです。

そこで今年度は、I L Cを生かしたまちづ

くりのための市の取組指針となる、「I L Cと共生するまちづくりビジョン」の策定を進めています。

・「大船渡港の活用等プラン」の策定

I L Cの建設にあたっては、大型の資機材等は国内外から海上輸送されるとされ、大船渡港は建設候補地に最も近い重要港湾であることから、荷揚げの中心地となることが期待されます。

また、今年3月に公表された「I L C東北マスタープラン（概要版）」においても、当市及び大船渡港は、荷揚げ後における製品の組立・検査・保管なども含めた、物流拠点として位置付けられました。

これらのことから、I L C建設期における大船渡港の利活用を見据え、大船渡港を核とした産業振興を図るため、「大船渡港の活用等プラン」も策定することとしています。

市では、これら2つの計画に基づき、I L C受入れ態勢の整備に努めて参ります。

おわりに

現在、I L C誘致を取り巻く情勢は大詰めの段階を迎えています。誘致実現には更な

る国民の理解が必要とされています。

そのためにも、まずは市民一人ひとりにI L Cの価値や意義、そして地域にもたらす大いなる可能性を理解していただき、誘致実現に向けた盛り上がりを地方から全国へ広げていきたいと考えております。

大船渡市では、引き続きI L C誘致に向けた取組みを、関係機関・団体と連携を図りながら進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。



天然の良港・大船渡港